

「神は憐もうと思うものを憐む」

主任牧師：重田 稔仁

<メッセージ>

犬や猫と一緒に暮らしていると、人間も動物も自分を好いてくれる相手には好意を寄せるが、自分に関心を寄せてくれない相手には興味を持たないという当たり前のことを実感します。

そんな人間と動物の違いは何か。それは、人間は愛情を抱けない相手にも愛しているふりをしますが、動物はふりができないということです。その理由は、動物は罪がないので愛に偽りがありません。とは言え、うちの愛犬のアロンと猫のニッキーはちょっと演技をする傾向があるので怪しいですが。まあ、飼い主に似たのでしょうか。

そんな犬、猫たちの話しはさて置き、今朝は人間の愛と一線を画する神の愛について改めて考えてみたいのですが、神の愛を知れば知るほど、神の愛と人間の愛との違いに気付かされます。神の愛に偽りがありませんのはもちろんのことですが、両者の決定的な違いは、前者は利他的、無条件に他者を愛し、後者は利己的、条件付きで他者を愛するということです。創世記25章には、その対比が明確に描かれています。

創世記 25:19～28 節

「アブラハムの息子イサクの系図は次のとおりである。アブラハムにはイサクが生まれた。イサクは、リベカと結婚したとき四十歳であった。リベカは、パダン・アラムのアラム人ベトエルの娘で、アラム人ラバンの妹であった。イサクは、妻に子供ができなかったので、妻のために主に祈った。その祈りは主に聞き入れられ、妻リベカは身ごもった。ところが、胎内で子供たちが押し合うので、リベカは、「これでは、わたしはどうなるのでしょうか」と言って、主の御心を尋ねるために出かけた。主は彼女に言われた。「二つの国民があなたの胎内に宿っており 二つの民があなたの腹の内では分かれ争っている。一つの民が他の民より強くなり 兄が弟に仕えるようになる。」月が満ちて出産の時が来ると、胎内にはまさしく双子がいた。その後で弟が出てきたが、その手がエサウのかかと（アケブ）をつかんでいたため、ヤコブと名付けた。リベカが二人を産んだとき、イサクは六十歳であった。二人の子供は成長して、エサウは巧みな狩人で野の人となったが、ヤコブは穏やかな人で天幕の周り

で働くのを常とした。イサクはエサウを愛した。狩りの獲物が好物だったからである。しかし、リベカはヤコブを愛した。」

創世記 25:19~28

母リベカの胎内で争った兄弟、エサウとヤコブについて主なる神が兄は弟に仕えろと母リベカに預言したことが 25:23 に記されていますが。これは神が、アブラハム、イサクに約束した祝福をエサウではなくヤコブを受け継がせようとしておられたことを意味します。

このことについてもうちょっと突っ込んでお話しする前に神の愛と対比されるヤコブとエサウの両親の息子達への愛について見てみたいのですが。

28 節に父イサクはエサウを愛したとあります。イサクは肉好きだったので狩の名手エサウをイサクは愛したと。

同じ 28 節に母リベカはヤコブを愛したとあります。ヤコブはリベカ天幕の周りで働くのを常としていた。つまりヤコブは母リベカのそば近くにおいて、リベカの話相手となり、リベカの手伝いをしていたのでしょう。だからリベカはヤコブを愛したと。わかりやすいですね。

父イサクと母リベカは共に自分にとって都合の良い方の息子を愛したのです。これが典型的な人間の愛の形です。つまり人間の愛は大なり小なり利己的、条件付きなのです。

人間と違い神はヤコブを利他的、無条件に選びました。神が利他的、無条件にヤコブ選んだとはどういうことか。

「わたしは自分が憐れもうと思う者を憐れみ、慈しもうと思う者を慈しむ」
ローマ 9 章 16 節の一節にあります。
神はヤコブがどうだ。エサウがどうだ。でなく、「ただ」ヤコブを憐み、慈しもうと選んだ！

皆さんの中にこの説明に釈然としない方がおられると思いますが、当事者のエサウは到底納得出来ないでしょうね。

何故、ヤコブなんだ！俺じゃだめなのか！俺は長男じゃないかと。
実際、マラキ書 1:2 に

「神はヤコブを愛し、エサウを憎んだ」とあるので、エサウは尚更、ヤコブを選んだ神に

反発するでしょう。

しかし、何度も言いますが、聖書は神がヤコブを祝福したわけについて、それは、神がヤコブを憐み、恵もうと願ったからとしか答えていません。

だとしたら、エサウは、私たちは神のなさをどのように受け止めたら良いのでしょうか。神がなすることは理解し難いと諦めるしかないのか。

いいえ、私たちは諦めてはなりません。

この物語を読み進めていくと不思議な神の知恵、神の導きに気がつかされます。

どういうことか？

創世記 33 章を紐解くとエサウが父イサク亡きあと父の財産を相続し経済的に豊かになりかつ多くの子孫に恵まれていたことが記されています。

これは何を意味しているのか、

この時代において財産と子孫の繁栄は主の祝福の証しでした。ヤコブに長子の特権を奪われたエサウも主に祝福され豊かな人生を送っていたのです。

だからこそ、エサウは再会したヤコブを受け入れ許したのではないのでしょうか。

ヤコブへの神の利他的、無条件の愛は兄エサウとの和解と平和のためだった。のです。

彼らの両親の子供たちへの歪んだ愛によって傷つけられていた関係を癒すための神の知恵だったのです。

この解釈、説明に納得していただけなかった方、納得していただけた方のためにも次回、もう一度、創世記 25 章から同じテーマで違う観点からメッセージしますので楽しみにしててください。

結論

神は憐もうと思うものを憐み、恵もうと思うものを恵むと約束しています。

それは、神の祝福に与ったものが神の利他的、無条件の愛によって隣人と平和に生きるためです。

あなたや私は主イエスにあってこの祝福に生きる幸いに与っています。

主イエスはアブラハム、イサク、ヤコブの子孫としてこの地上に生まれ、十字架にかかって死なれました。それは、罪によって神の愛を見失った私たちが、主の十字架の死によって罪の縄目から解放され、主イエスと共に神の愛に立ち返り、神の愛に生きるためにです。

利己的、条件付きの愛に生きるか、利他的、無条件の愛に生きるか、

神は主イエスにあって私たちが神の愛に生きるように招いておられます。

神の招きに共に応答させていただきませんか。神の招きに応答するときあなたの人生に争いではなく平和がもたらされることをヤコブとエサウの人生が証ししています！